生涯学習の見直しについて

公益社団法人
日本理学療法士協会
Japanese Physical Therapy Association

JPTA

2026年11月25日公開

見直しの背景

資格制度は、社会環境の変化に応じて定期的に見直されるべきもの。
施行後の運用で見えた課題を整えると共に、現在の社会情勢を踏まえて、
各資格制度の位置付けや学習方法を、
新生涯学習制度の施行10年にあたる2032年度に見直す。
なお、2029年度には先行して一部の改定を実施する。



各資格制度の位置づけ

登録理学療法士	制度趣旨：理学療法士としての基礎形成 人 物 像 ：基本的な理学療法が実践できる者
認定理学療法士	制度趣旨：キャリア・働くステージを基盤としたスペシャリスト育成制度 人 物 像 ：領域ごとの品質保証と指導教育実践が現場でできる者
専門理学療法士	制度趣旨：学術・専門性を基盤としたスペシャリスト育成制度 人 物 像 ：学術的専門性を備え、臨床疑問を研究し現場に還せる者

2032年以降　協会における生涯学習の全体像

登録理学療法士制度

基本的な理学療法の実践力を身につけ、更新を重ねて磨き続ける「最初の教育」の制度です。
認定・専門へ進まず、幅広く学び続ける道も選択肢の1つです。

前期研修 → 後期研修 → 登録理学療法士 更新（5年ごとに更新）

キャリア・働くステージを基盤としたスペシャリスト育成制度

認定理学療法士制度

5年ごとに更新

- 病期・職域：急性期／地域／産業／etc…
- 疾患：神経系／運動器系／内部障害系／etc…

並列　相互に取得可

学術・専門性を基盤としたスペシャリスト育成

専門理学療法士制度

5年ごとに更新

神経／運動器／循環／etc…

日本理学療法学会連合
協会と各学会が共同運営

キャリア形成

管理者能力の強化
マネジメント制度
検討中：管理・運営の能力を段階的に育成

地域事業・保険事業での推進
推進リーダー制度
地域ケア会議／母子保健／フレイル／産業保健／etc…

登録理学療法士制度の見直し内容

前期研修 後期研修	**早期修了制度および実務経験者に対する緩和措置を設ける** 後期研修に追加課題を設け、所定の要件を満たした会員は最短2年で修了できる制度を検討いたします。 併せて実務経験が一定以上の会員は前期研修を免除する制度の導入を検討いたします。
登録理学療法士 更新	**一定回数の更新を経た者には、以降の更新に軽減措置を設ける** 年齢や働き方の変化に応じ、学び続けやすい制度を検討します。
登録理学療法士 未更新者	**更新できない者は「資格停止」とし、要件を満たした時点で解除する** キャリアやライフステージの多様化に対応し、未更新期間中は登録理学療法士としての権利を停止する一方、所定の要件を満たすことで復帰できる制度とします。 なお、未更新者の名称・資格上の位置付け、復帰要件および延長制度との関係については引き続き検討いたします。

ポイント・点数システムの見直し内容

登録理学療法士更新のためのポイント

認定/専門理学療法士更新のための点数

育成指導活動

社会貢献活動

士会活動なども評価

範囲・基準など検討中

一本化

NEW

会員活動ポイント

研修会の受講目的が資格更新だけにならないよう、あくまで**自己研鑽**の活動として評価します。
また、生涯学習制度の枠組みを超え、**育成指導**や**社会貢献**など会員としての活動実績も幅広く評価し**見える化・蓄積する制度**とします。
本制度は資格更新のためにも利用できますが、更新だけのものではありません。

認定・専門理学療法士制度の見直し内容

認定理学療法士制度

「病期・職域別」と「疾患別」
二つの切り口で専門性を認定します。

分野数・分野名については
国民にとってわかりやすいよう
既存の分野も含めて見直します。

病期・職域

急性期　地域　産業　etc…

疾患

神経系　運動器系　内部障害系　etc…

どちらも専門性であり、優劣はありません。重複して取得できます。

専門理学療法士制度

法人学会と共同運営とし、
専門性・学術性の高い制度へ成長させます。

神経　運動器　循環　etc…

日本理学療法学会連合

協会と各学会が共同運営

Pont !

両資格制度ともに
取得要件・更新要件等については
現在検討をしている段階です。
選択可能な移行措置等を設け、
既存の取得者の皆様にとって
不利益にならないよう
慎重に検討を進めてます。
決定し次第、順次ご案内します。
今しばらくお待ちください。